

2015 11/10

No.2006

毎月第2・第4火曜日発行

政経 かながわ

一般社団法人
— 神奈川政経懇話会 —



さがみ湖リゾートプレジャーフォレスト(相模原市緑区若柳)で恒例の「さがみ湖イルミリオン」が始まった。園内は「光のバックingham宮殿」など英国調をテーマに発光ダイオード(LED)電球約550万個の明かりで彩られている。来年4月10日まで。有料。



政経かながわ

2015 11/10 No.2006

contents

視点・点描 3

殿町のアクセス充実急務

講演録 4

どうなる日本経済

双日総合研究所チーフエコノミスト 吉崎 達彦

政治 8

安倍「支持率政治」の功罪
臨時国会で山積課題の熟議を

社会 10

東京五輪で技術、文化を発信
地域振興へ自治体も積極参加を

企業最前線 12

環境配慮コンクリ、ゼネコンが注力
20年東京五輪にらみ導入急ぐ

くらし2015 14

軽減税率で逆進性は解消されるか

広告珍談 16

広告はたのしい③
寄せ書きの広告

NNAアジア経済レポート 17

会員のページ 18

設立50周年は来年4月に(その16)講演録抄録⑥
会員の動き

会員のページ 19

設立50周年は来年4月に(その16)講演録抄録⑥

事務局だより

◇神奈川政経懇話会 設立50周年記念特別講演会

2015年11月30日

14時～15時30分

横浜情報文化センター6階

「情文ホール」

講師は女優の岩下志麻さん。

司会は共同通信社編集委員の

立花珠樹さん

演題は「私の女優人生-岩下志

麻が語る演技と出会い」

◇横浜定例講演会・交流会

2015年12月11日

横浜ベイシェラトンホテル&タ
ワーズ

▽講演会

11時～12時30分、4階「浜風」

講師は共同通信社政治部長・

小淵敏郎氏、同経済部長・東

隆行氏、同企画委員(国際関

係)・沢井俊光氏、神奈川新聞

社取締役論説主幹・林義亮氏

演題は「2016年の動向を読む」

▽交流会

12時40分～14時、4階「清流」

視点 点描



殿町のアクセス充実急務

川崎市が進める殿町国際戦略拠点「キングスカイフロント」が注目されている。ナノ医療イノベーションセンターiCONMが今年4月に運営を開始し、4つの象徴的な施設が稼働。今後、国立医薬品食品衛生研究所や県の（仮称）ライフイノベーションセンター、大和ハウス工業、日本アイソトープ協会などの建設ラッシュも続く。成長が見込まれるライフサイ

エンス（生命科学）分野での研究開発の一大拠点となり、京浜工業地帯の再生、持続的な成長を示すモデルケースとなるからだ。特に注目されているのは、ナノ医療イノベーションセンターで片岡一則東大教授が取り組んでいる研究だ。がん細胞だけではなく、健全な細胞にまで影響し副作用を起こした抗がん剤をウィルスサイズ

の細胞のみを攻撃させるという画期的な方法を研究。すでに製薬会社が製造ラインを用意しているとの話もあり、新薬の承認を今年度内に厚生労働省に申請するという。人体内をナノマシンが行き来するというのは、SF映画「ミクロの決死圏」の世界を想像させ、ここでの成果の象徴となろう。

実験動物中央研究所では、iPS細胞を使った再生医療による脊髄損傷治療の開発を推進。ジョンソン・エンド・ジョンソンは先進医療機器のトレーニングセンターを開設し、すでに1年で目標の倍の2万2千人が国内外から来場し心臓カテーテル手術などの研修を受けている。2017年3月には、ロボットスーツHALのサイバーダイナも進出する。

この地域の特徴は、自社だけでなく他社や大学などが持つ技術や

アイデア、サービスなどを組み合わせ、革新的なビジネスモデルや製品開発などにつなげる「オープンイノベーション」の拠点であるという点だ。大企業だけではなく、中小企業の参入も可能な点で、経済効果が幅広く現れる可能性がある。

ただ、まだまだ課題もある。アクセスと中小企業の参入のための支援策だ。特にアクセスは、羽田空港から直線で800メートルのところにあるとはいえ、まだまだ心もとない。2020年をめどに建設されるアクセス橋、京急大師線の立体交差化による産業道路の渋滞解消、国道357号（多摩川トンネル）の建設などの着実な建設が望まれる。さらに鉄道の延伸などのアクセスの充実実現も望みたい。

（神奈川新聞社川崎総局長

瀧村 誠）

寄せ書きの広告

この奇妙な広告をご覧あれ。(ルビはボクがつけた)

《「圓本」の忌憚なき批判は「匿名批判」に限る

近代「剣」座談会 出鱈目の大衆文芸を剣客より本当の剣客の話が面白いぞ》

カタナと手首のイラスト

《「酒と海軍」雨夜大佐 下村海南海軍軍人がどんな酒の呑み方をするか。

室生の「文芸時評」は評判がいいぞ。

文藝春秋 十月号が出た！矢張り安くて面白いよ》

へのへのもへじの顔

《菊池の「半自叙伝」は一高時代に入った。芥川 久米 倉田の面目が出てゐる。

「国性翁合戦」「これは築地小劇場

十月新築開場の台本だね」

「そうだ。小山内さんが書いたんだ」

相合い傘のイラスト、訴人 木下

李太郎 近松半二の死 岡本綺堂

南京の六月祭 犬養健 僕の澄江

堂 芥川の手紙が随分面白い

武者小路実篤・小林一三・岡本一

平・長谷川如是閑・萩原朔太郎・

政宗白鳥

林房雄・浜田青陵・関根正直・新

村出・森田恒友など、著名人が散らばつてゐる。

1928 (昭和3) 年9月、朝

日新聞に掲載された雑誌《文芸春秋》の広告である。いっけん寄せ

書きのように見えるが、だれかひとりが書いたらしい。楽しかった

ろうな。

《文芸春秋》は1923 (大正

12) 年1月、菊池寛が文芸随筆雑

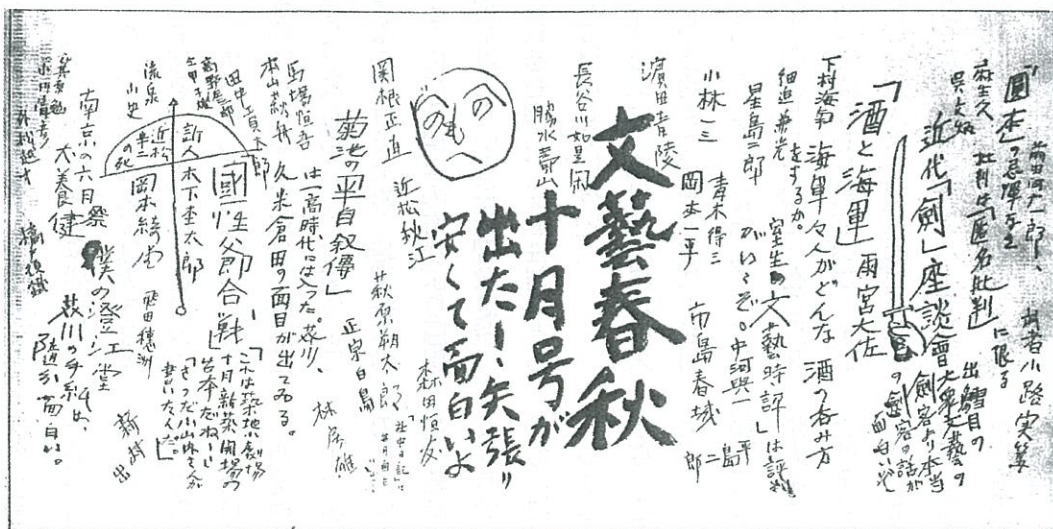
誌として創刊。26年から広範な読

者を獲得しようとした。総合雑誌になった。

《文芸春秋》とい

えば文壇への登竜門

といえる、芥川賞と



者を獲得しようとした。総合雑誌になった。

《文芸春秋》とい

えば文壇への登竜門

といえる、芥川賞と

直木賞。どちらも35

(昭和10) 年に設立

された。芥川賞作家

だ直木賞作家だと、

しばらくはちやほや

されるが、いつしか

消えてしまった多く

がいる。きびしい世

界でもある。また文

化活動に功績があつ

た人に贈られる菊池

寛賞は、39 (昭和14)

年に設立された。

(美術エッセイスト、

茅ヶ崎市在住)

図は雑誌《文芸春

秋》の広告。1928